

別表第 2 参考手法（案）【改正部抜粋】

環境要素の区分	影響要因の区分	調査の手法	予測の手法	評価の手法
放射線の量 (粉じん等の発生に伴うもの)	道路事業, 林道事業, 堰事業, 放水路事業, 鉄道及び軌道事業, 火力発電所事業, 焼却施設事業, し尿処理施設事業, 下水道終末処理場事業, 公有水面埋立等事業, 土地区画整理事業及び住宅団地造成事業, 工業団地造成事業, 流通業務団地造成事業, 農用地造成事業, 土石等採取事業, レクリエーション施設等事業, 工場等事業, 複合開発事業に係る建設機械の稼働, 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	1 調査すべき情報 (1)放射線の量の状況 (2)気象の状況 2 調査の基本的な手法 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析 3 調査地域 粉じん等の拡散の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域 4 調査地点 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し, 及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点 5 調査期間等 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し, 及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間, 時期及び時間帯	1 予測の基本的な手法 事例の引用又は解析 2 予測地域 調査地域のうち, 粉じん等の拡散の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域 3 予測地点 粉じん等の拡散の特性を踏まえて予測地域における放射線に係る環境影響を的確に把握できる地点 4 予測対象時期等 放射線に係る環境影響が最大となる時期	1 評価項目 評価項目は, 予測した項目とする。 2 評価の指針 環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。 3 評価方法 評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に基づき, 「第 10 評価の手法」に照らして評価する。
	飛行場事業に係る建設機械の稼働, 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行, 造成工事及び施設の設置等			
	土石等採取事業に係るプラント及び建設機械の稼働, 土石等の搬出入			
	最終処分場事業に係る建設機械の稼働(陸上埋立), 建設機械及び作業船の稼働(水面埋立), 資材, 機械及び建設工事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行, 埋立・覆土用機械の稼働(陸上埋立), 埋立・覆土用機械の稼働(水面埋立), 廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	1 調査すべき情報 (1)放射線の量の状況 (2)粉じん等の状況 (3)気象の状況 2 調査の基本的な手法 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析 3 調査地域 粉じん等の拡散の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがある地域 4 調査地点 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し, 及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点 5 調査期間等 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し, 及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯	1 予測の基本的な手法 事例の引用又は解析 2 予測地域 調査地域のうち, 粉じん等の拡散の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域 3 予測地点 粉じん等の拡散の特性を踏まえて予測地域における放射線に係る環境影響を的確に把握できる地点 4 予測対象時期等 放射線に係る環境影響が最大となる時期	1 評価項目 評価項目は, 予測した項目とする。 2 評価の指針 環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。 3 評価方法 評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に基づき, 「第 10 評価の手法」に照らして評価する。
	風力発電事業に係る建設機械の稼働, 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行, 造成等の施工による一時的な影響			
放射線の量	道路事業に係る切土工等又は	1 調査すべき情報	1 予測の基本的な手法	1 評価項目

(土砂による水の濁りの発生に伴うもの)	既存工作物の撤去等，工事施工ヤードの設置，工事用道路等の設置	(1)放射線の量の状況 (2)濁度又は浮遊物質量の状況及びその調査時における流量の状況 (3)気象の状況 (4)土質の状況	事例の引用又は解析 2 予測地域 調査地域のうち，流域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域 3 予測地点 流域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて予測地域における放射線に係る環境影響を的確に把握できる地点 4 予測対象時期等 放射線に係る環境影響が最大となる時期	評価項目は，予測した項目とする。 2 評価の指針 環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。 3 評価方法 評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に基づき，「第 10 評価の手法」に照らして評価する。
	林道事業に係る造成等の工事による一時的な影響	2 調査の基本的な手法 文献その他の資料及び現地調査による情報(浮遊物質量については，水質汚濁に係る環境基準に規定する浮遊物質量の測定の方法に用いられたものとする。)の収集並びに当該情報の整理及び解析		
	堰事業に係る建設機械の稼働，堰本体の工事，護岸の工事，掘削の工事	3 調査地域 流域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域		
	放水路事業に係る建設機械の稼働，洪水を分流させる施設の工事，掘削の工事，堤防の工事	4 調査地点 流域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し，及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点		
	鉄道及び軌道事業，飛行場事業，焼却施設事業，し尿処理施設事業，下水道終末処理場事業，レクリエーション施設等事業に係る造成工事及び施設の設置等	5 調査期間等 流域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し，及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期		
	火力発電所事業に係る建設機械の稼働，造成工事及び施設の設置等			
	公有水面埋立等事業に係る堤防及び護岸の工事，埋立ての工事			
	土地区画整理事業及び住宅団地造成事業，工業団地造成事業，流通業務団地造成事業，農用地造成事業，工場等事業，複合開発事業に係る造成工事及び工作物の建設			
	土石等採取事業に係るプラントの建設，土石等の採取，プラント及び建設機械の稼働			
	風力発電事業に係る造成等の施工による一時的な影響			

	最終処分場事業に係る造成等の施工(陸上埋立), 護岸等の施工(水面埋立)	<div>1 調査すべき情報</div> <div>(1)放射線の量の状況</div> <div>(2)濁度又は浮遊物質量の状況(河川にあっては、その調査時における流量の状況を含む。)</div> <div>(3)流れの状況</div> <div>(4)土質の状況</div> <div>2 調査の基本的な手法</div> <div>文献その他の資料及び現地調査による情報(浮遊物質量については、水質汚濁に係る環境基準に定める浮遊物質量の測定の方法による情報)の収集並びに当該情報の整理及び解析</div> <div>3 調査地域</div> <div>水域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがある地域</div> <div>4 調査地点</div> <div>水域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点</div> <div>5 調査期間等</div> <div>水域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における放射線に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期</div>	<div>1 予測の基本的な手法</div> <div>事例の引用又は解析</div> <div>2 予測地域</div> <div>調査地域のうち、水域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて放射線に係る環境影響を受けるおそれがある地域</div> <div>3 予測地点</div> <div>水域の特性及び水の濁りの変化の特性を踏まえて予測地域における放射線に係る環境影響を的確に把握できる地点</div> <div>4 予測対象時期等</div> <div>放射線に係る環境影響が最大になる時期及び事業活動が定常状態になる時期</div>	<div>1 評価項目</div> <div>評価項目は、予測した項目とする。</div> <div>2 評価の指針</div> <div>環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</div> <div>3 評価方法</div> <div>評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に基づき、「第 10 評価の手法」に照らして評価する。</div>
放射線の量 (建設工事に伴う副産物に係るもの)	道路事業に係る切土工等又は既存の工作物の除去等		<div>1 予測の基本的な手法</div> <div>建設工事に伴う放射性物質を含む副産物の種類ごとの発生及び処分の状況の把握</div> <div>2 予測地域</div> <div>対象事業実施区域</div> <div>3 予測対象時期等</div> <div>工事期間</div>	<div>1 評価項目</div> <div>評価項目は、予測した項目とする。</div> <div>2 評価の指針</div> <div>環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</div> <div>3 評価方法</div> <div>評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に基づき、「第 10 評価の手法」に照らして評価する。</div>
	林道事業に係る造成等の工事による一時的な影響			
	堰事業に係る堰本体の工事, 護岸の工事, 掘削の工事			
	放水路事業に係る洪水を分流させる施設の工事, 掘削の工事, 堤防の工事			
	鉄道及び軌道事業, 飛行場事業, 火力発電所事業, 焼却施設事業, し尿処理施設事業, 下水道終末処理場事業, レクリエーション施設等事業に係る造成工事及び施設の設置等			
	公有水面埋立等事業に係る堤防及び護岸の工事			
	土地区画整理事業及び住宅団地造成事業, 工業団地造成事業, 流通業務団地造成事業, 農用地造成事業, 工場等事業, 複合開発事業に係る造成工事及び工作物の建設			

	土石等採取事業に係るプラント の建設, 土石等の採取			
	風力発電事業に係る造成等の 工事による一時的な影響			
	最終処分場事業に係る造成等 の施工(陸上埋立), 護岸等の 施工(水面埋立)	1 調査すべき情報 (1) 地形の状況 (2) 土地利用の状況 (3) 廃棄物については, その種類ごとの再資源化施設, 中間処理施設及び最終処分場における処 分の状況 (4) 切土又は盛土に伴う土砂の保管状況 2 調査地域 対象最終処分場事業実施区域並びに廃棄物については, その種類ごとの再資源化施設, 中間処 理施設及び最終処分場における処分の状況, 切土又は盛土に伴う土砂の保管状況を適切に把握 するために必要な地域	1 予測の基本的な手法 建設工事に伴う放射性物質を含む副産物の種類ごとの発生及び処 分の状況の把握 2 予測地域 対象最終処分場事業実施区域及び建設工事に伴う放射性物質を 含む副産物の種類ごとの発生及び処分の状況を適切に把握するた めに必要な地域 3 予測対象時期等 工事期間	1 評価項目 評価項目は, 予測した項目とする。 2 評価の指針 環境への影響を最小限にとどめるよう環境保 全について配慮されていること。 3 評価方法 評価項目ごとに現況調査及び予測の結果に 基づき, 「第 10 評価の手法」に照らして評価 する。